第 2018-37 号

恵みと真理のニュース

2018 年 9 月の三次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

すべての点で主に喜ばれるように主に従って歩み、あらゆる善い業を行って実を結び、神をますます深く知るように祈ります。

“いつも泣いてもその恵み返さない。私のすべてを主にささげて主の事に力を尽くす。十字架十字架、私が初めて見る時、私の苦痛がなくなり、イエス様を信じて私の目が開かれて本当にうれしい。”

私は神様がどんな方なのか知らずに魂が新たに生まれ変わることができなかったまま長い歳月を世俗的な人生観と価値観を持って生きていました。周りに伝道する方々がいましたが、人が魂を持った存在であることと死んだ後にどうなるかについて運命に関する話が信じられず、伝道者達が話に関心がなかったです。代わりに世の人々が話す成功と福にたいする観念を持って求める生活をしました。結婚して穏やかな家庭で経済的にも豊かになってもっとも世がくれる楽しさに落ちて生活しました。
しかし、生活が安定され生きることに問題がないとある日から旦那が無秩序な安易な生活を送りました 。ますますひどくなり、私が悲しんでいるとき隣の家に住む恵みと真理教会の区域長がもっと熱心に伝道しました。私は初めて福音に耳に傾けるようになって教会へも来るようになりました。
初めて参席した礼拝に説教を聞く時、当会長の牧師の説教の内容が私に向け話すように聞こえて心に大きい慰めになり、平安になりました。神様とイエスキリストに対して、死後の世界と救いの真理について知るため続けて教会に来て牧師の説教を聴きたくなりました。その後からすべての礼拝に積極的に参席しました。休まずに説教を聞きながら恵みで悟ってくださる聖霊様のお働きで創造主であり、救い主である神様の恵と真理について神霊な知識を得るようになりました。イエス様を救い主として受け入れて救いの確信を得ました。祈って賛美する楽しさも享受するようになりました。相変わらず旦那の生活に変化がなくて身体的および精神的に疲れて苦しい時が多かったですが、私のため血を流したイエス様を考えて祈りながら我慢できました。
年老いた舅姑を面倒を見るためピョンテクで降りて来て舅が亡くなった後は、近くのアンジュンのマンションを購入して義母と共に住みました。義母は熱情的な仏教信者でした。義母は偶像崇拝を辞めて神様を畏れて愛し仕える生活をするように祈り熱心に祈りました。そうするある日に“あなたはなぜ毎日教会に行くか。”と責めました。熱心に家事をしながら義母を面倒をみる私の心を知らなくてむしろ責める義母が悔しくて“私があまりにも大変で神様に毎日、泣くため教会に行きます。”と答えました。すると、義母は一言も言わなかったです。その日、私は教会に行って私の心を神様に話していつもより切ない心で泣きながら祈りました。
その後から、義母は変化し始めました。その時から私を慰めたり、愛したり、家庭生活にも大きい力になってくださいました。神様が私の祈りを聞いて下さり、義母を変化させてくださいました。義母は偶像崇拝を辞めて恵と真理教会に来て決心して、熱心に信仰生活しながら執事の職分を受けました。決信はしましたが、あまり礼拝に出席しなかった旦那も神様が変化して下さり、礼拝し主の事をするようにしてくださいました。
大変な生活をしている中で旦那が友達の保証をしたことが問題になって家さえ競売でほかの人に渡されて無一物になり住むどころもなかったです。どうする方法と仕方がなくて私は神様を仰ぎながら祈りました。神様は私の涙を聞いて下さり、助けて摂理して下さり、ここナンヤンで私達の経済状況に合う家に引っ越しました。その後、旦那は誠実に自分に任された事を行いました。
暮らす環境は大変でも主を喜ばせるのが私の人生の理由と目的で時間を使い熱心に主の事をしました。
“何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である 。”（マタイによる福音書 6, 33, 34）御言葉を考えながら心を尽くして奉仕しました。そんな私をきれいに見たか、もっと多くの奉仕の機会と職分をくださいました。
今、私は首区域長として聖徒を仕え不信者たちに福音を伝えていて、聖歌隊長として聖歌隊を仕えてまた助け合い宣教会で総務と美化部員で聖徒と教会を仕えています。すべてのことが尊いで福ある事ですが、特に伝道することが私には一番幸せになります。旦那も教区バスを運行する機会が与えられ熱心に神様に礼拝しながら私が教会の事をよくできるように積極的に助けてくれます。
経済的に豊かではなくても、このように私の夫婦が熱心に教会と主の事をしながら神霊な満足と喜びを享受していて真で幸せです。神様が与えてくださった恵みと愛に感謝しながら相変わらず主に従順と忠誠をつくします。“すべての点で主に喜ばれるように主に従って歩み、あらゆる善い業を行って実を結び、神をますます深く知るように。”（コロサイの信徒への手紙1：10）
“互いにこのことを心がけなさい。それはキリスト・イエスにもみられるものです。キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。”（フィリピの信徒への手紙２：５～８）
“しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証しするという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません。
（使徒言行録20：24）ハレルヤ

［信仰コラム］　神癒に対する無知と誤解、偏見

”愛する者よ。あなたのたましいがいつも惠まれていると同じく，あなたがすべてのことに惠まれ，またすこやかであるようにと，わたしは 祈っている”（ヨハネの第三の手紙 2 節）

人の健康と治癒のため神様が貴重な御言葉を聖書に記録してくださり、病気の癒しを受けるためにお祈りすると癒してくださると約束なさいました。驚くべきで感謝なことであります。ある人々の神癒に対する無知、誤解、偏見を列挙しながら聖書的な正しい観点を調べてみます。
第一は、”神様は私達を罪から救ってくださる方で、病気を癒される方ではない。”と主張する人々がいます。
このような主張が非聖書的だということを明らかにするのは難しくありません。聖書に神癒に対する数多くの約束があり、我が主イエス様の地上での活動も病んだ人を癒されることで始められました。復活なさったイエス様は昇天なさる直前に彼を従う者達に罪の許しの福音と神癒の福音を続いて述べ伝えることを命令なさいました。使徒達と初代教会はイエス様の命令に従って神癒の使命を良く遂行しました。
第二は、”病んだのが神様の思いなのかいなか私達が知らない。神様の思いによって人が病むこともあり、治ることもあるので病んだ者は癒してくださいとお祈りするのではなく神様の思い通りにしてくださいとお祈りすべきだ。”と主張する人がいます。
このような主張をする人も病気にかかると病院に行き、薬も飲みます。そのようなら、このような行動は自分だけではなく医者と薬師まで神様の思いに逆らって行うように行動することになります。病気が治るためにお祈りするのは神様の思いであり、主の命令であります。これについて多くの証拠が聖書にあるので論難の余地がありません。
第三は、病んだ人は疾病の治癒より肉親の疾病を通じて霊的な変化と進歩の契機に扱うべきだと主張する人がいます。
このような人々は肉体の刺によってお祈りした使徒パウロの体験を話します。その肉体の刺が何なのか断定するのは難しいが、万が一それが疾病や肉体的な障害、惰弱だとしてもあくまでも使徒パウロにあった特別な場合に見るべきです。私達が特別な場合を一般化する誤謬を犯してはなりません。使徒パウロも神癒の使役をしました。
第四は、神癒の時代は過ぎたと主張する人がいます。
さすが医学の発展は驚異的です。様々な種類の伝染病がほぼ退治されたり天然痘のように完全征服されたこともあります。しかし、実情を言うと疾病との戦いは終りがありません。絶えず変種のウイルスと耐性を持った菌が生じています。そして以前になかった新たな疾病と致命的な伝染病が生じています。
第五は、神癒のためのお祈りをしても治らない場合があるので神癒のためのお祈りはする必要がないという主張をする人がいます。お祈りして治らない場合は神様の光栄を覆い、信者の信仰に損傷を与えると話します。
そうなら、薬を飲んだり医者の助けを受けても病気が治らない場合が稀だとして薬屋と病院を閉鎖すべきだと話すでしょうか？病んだ者は治癒されるためにお祈りするよう命じられ、主が癒してくださると言われたので私達が喜んで従わなければなりません。神癒のお祈りをするとたくさんの有益な現象ができます。苦痛が止まります。科学療法や放射線治療の副作用が減少されたり除去されます。医学的な治療に効力が増加されます。病の進行が中止されます。急速に治癒されたり徐々に治癒されることもあります。そして人間の理解が及べない神様の摂理もあります。私達が神癒のために積極的にお祈りすべきの理由は病を癒されるためだけではなく、病を癒されることによって人々が神様の光栄を捧げるようになるからです。
神癒に対する無知と誤解と偏見は聖書に記録された神様の御言葉の絶対権威の前にひざまずかない故に生じます。聖書に記録された御言葉をその通りに信じると神癒の信仰に障害になる誤った知識と考えがすっきり除去されます。聖書に信仰を守って述べ伝えるために受ける苦難は喜んで耐えるよう記録されたが、疾病は治癒されるためにお祈りするよう命じました。神様の思いは病んだ者が癒されることです。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

神の言葉を従って行う人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

「イエス様を信じればどんな変化が来ますか」という質問に対してクリスチャンとしては決定的な答える必要があります。イエス・キリストを信じれば多くの変化が**生じ**ます。最大の変化は、出生と身分に生じる変化です。罪の赦しを受けて義人になり、新しい命を得て生きる神の子とされる変化です。これは最も根本的な変化です。そのほか、他の変化も数え切れないたくさんあります。観念の変化になることができます。宇宙観、歴史観、人生観、価値観などが変化します。これらの観念の変化は、聖書に記録された神のみ言葉によるのです
クリスチャンは、神の言葉ですべてを分別して判断します。ただ、神の言葉への理解が不足して偏って行う場合があります。恐怖、迷い、貪欲を克服できず、偏って行う場合があります。しかし、聖霊様の導きと叱責を受けると方向をかえされます。どうかクリスチャンは、神の言葉である聖書が信仰と生活の基準であり、根拠です。神の言葉を従って生きていくということは、よりないで大きいことであり、また、特別な恵みです。
今日は「すべての信じる者の祖先」（ローマ書4:11）と呼ばれるアブラハムを通して教訓を得ようとします。アブラハムは、神の言葉を従っていました。しかし、時には神の言葉を超えて行動をしました。しかし、晩年には完全に神の言葉を従って行動しました。アブラハムの 175 年の生涯で重要な出来事をまとめてみましょう

1.アブラハムの名前が登場し始めたのは、創世記 11 章 26 節からです。

アブラハムという名前は、99 歳の時に、神が改名してくれた名前であり、もともとはアブラムです。アブラハムは、 カルデヤ の ウルから父テラと兄弟ナホルとハランで一緒に住んでおり、サライと結婚しました。ナホルは彼の兄弟ハランの娘ミルと結婚しました。これを推測するとハランは、他の兄弟たちとの年齢差が非常に多いようです。ハランは早く死亡しました。ハランが死んだ後テラは息子アブラハムと自負サラと孫ロトを連れてカルデヤ の ウルを離れ、ハランに移住しました。テラは 205 歳を享受してハランで死亡しました
創世記 12 章には、次のように記録された「**時に 主は アブラム に 言われた， 「あなたは國を 出て， 親族に 別れ， 父の 家を 離れ，わたしが 示す 地に 行きなさい」（創世記 12：1）**アブラハムがハランから神の召しと言約を受ける場面です。アブラハムは、彼の父テラと一緒にハランに住む前にカルデヤ の ウルで初めて召され出発したが、ハランにしばらくとどまった。（行 7：2～4）、ハランで父親が亡くなった後、神が再度お呼びくださったのです。
今日の本文の **創世記 12**：4 節では**「アブラムは 主が 言われたようにいで 立った． ロトも 彼と 共に 行った． アブラム は ハランを 出たとき 七十五歳であった」**と記録された。

アブラハムは行く所を知らず行ったが、漠然としていません。神がアブラハムに入らなければなら土地を意図して置きたからです。本文の 5 節に**「アブラム は 妻 サライ と， 弟の 子ロト と， 集めたすべての 財産と， ハランで 獲た 人々とを 携えて カナン に 行こうとしていで 立ち， カナン の 地にきた」**と記録された。700 キロを超える距離を旅して、最終的にカナンに到着しました。神の言葉を従って生きていくクリスチャンは皆結末が良くなります。天国に入るからです

2.カナンに入って間もなく激しい飢饉が発生しました。

するとアブラハムはエジプトに下って行きました。神の言葉を従ってカナンに来たが飢饉に会うなると、神の言葉から外れた道を行っています。アブラハムは妻サラが、優れた美貌を持っていると考えてエジプトの人にサラを奪われると思って姉だと紹介しました。エジプトの王は、サラを妻にとりました。神が介入させたのでサラが無事にアブラハムへ戻ってくるようになりました
ここで、信仰の祖先、アブラハムの裏面に隠された人間的な弱い一面を見られます。アブラハムは、カナンの地に飢饉が迫ってきたとしても、神の言葉を従ってきたので、神が他の言葉がない限り、そのまま耐え待つことでした。そしてアブラハムは恐ろしいときも、神の世話と助けをさらに意志しなければならないはずです、むしろ自分のはかりを頼りたものです。
アブラハムは、同様の行動をもう一回しました。アブラハムが南方に居住を移しゲラルに暮らすときにこのような過ちを繰り返しました。ここでも妻を妹だと偽って妻を奪われる苦しみを受けました。やはり神が介入されたので、無事に解決しました

3.エラムの王ケドルラオメルが北方の四国連合軍を編成して、カナンの地の死海沿岸の 5 同盟国の王を攻撃する事件が発生しました。

連合軍は、ソドム　ゴモラ人々をつかんで行ってそのときロトの一家も取られました。このニュースを聞いたアブラハムが家庭で育てた 318 人の装丁を率いて遠くダンまで追撃しました。兵力を分け、夜間奇襲を敢行してケドルラオメル連合軍を撃破しました。アブラハムは、すべての富を取り戻し捕虜になっていた人々を救出しました。もちろん、ロトとその家族も救出しました。この時、アブラムの年齢は 84 歳と推定されます。わずか 318 人の装丁でメソポタミヤの 4 つの連合軍を相手にする作戦は無謀な行動や相違ありません。それにもかかわらず、アブラハムが少数の人々を動員してロト救出作戦を敢行したのは、ロトの変わらない愛情と併せて、神の助けとの約束を確信している信仰があったからです。御言葉を従って行ったものです
ソドムの王がアブラハムに言った、「人は私へ送って戦利品は、あなたが取りましょうしました」。アブラハムがソドムの王に、「天地の主宰でありと極めていと高き神、エホバ主に私は手を挙げて誓います。あなたが言うのを私がアブラハムを豊かにした.というかして、あなたに属しているのは、一糸や靴ひもも私は何も持って行かないです。」と答えました。古代の習慣によると、当然の戦利品を、アブラハムが所有することができました。しかし、アブラハムは、神の栄光のために、これを放棄しました。神が彼に富になると約束の言葉を従って、このような行動をしたものです。

4.アブラハムがハガルから息子を得ました。

アブラハムがカナンの地に定着して 10 年が過ぎても妻のサラは、子を産まなかった。アブラハムは、サラの勧誘に応じて行ってサラの僕であるハガルと寝ました。そしてハガルがにごもって息子、イスマエルを生みました。アブラハムとサラは、神が約束された御言葉を従わず言葉で外れた行動をしました。最初は息子を得たと好きましたがまっすぐ急変したハガルの高慢な態度により、アブラハムの家庭に安らぎが消えました。

5.神がアブラハムに言われました。

神が 99 歳のアブラハムに言われた「あなたの妻サラがあなたに息子を産み与えるはずだから、あなたはその子をイサクと呼べ。私は彼と私の言約を立てるのだ、彼の子孫に永遠の言約となる。」としました。いよいよアブラハム 100 歳、サラ 90 歳で息子を産んで、神の御言葉の通りの名前をイサクと名付けた。イサクはアブラハムの人生の喜びであり、やりがいであり、誇りであり、幸福になりました
イサクは青少年になっとき、神がアブラハムに言われた。 「あなたの息子、すなわちあなたが愛するあなたの独り息子イサクを連れてモリヤの地に行き、私はあなたに言ってくれるな山の上、そこで彼を焼けにせをしなさい」青天の霹靂のような言葉だったが、アブラハムは、神の言葉に従って、そのまま行しました。彼は、遅滞せず離れ立ち神の指示したところであるモリヤ山へ行きました。山の上に上がったアブラハムは祭壇を積んでイサクを縛って祭壇の上に載せナイフを挙げました。その瞬間、神の使者が「アブラハム、アブラハムよ ″と呼ばれていました。アブラハムが「私はここにいます。」と答えたら、神の使者が「その子に手をつけてはいけない。何も彼にしていてはいけない。あなたが自分の息子も私に惜しまないので、私は今になってあなたが神を恐れることを知ります」と言いました。アブラハムが目を上げて見てみると子ひつじが後ろにあり、角がかかっていました。アブラハムは行ってその雄羊を取り、息子の代わりに焼けにせで燔祭しました。

アブラハムの生涯にあったこれらの事件は、私たちに神の言葉を従って行う場合と、神の言葉を超えて行う時の結果について教えています。アブラハムは、生まれ故郷父の家を離れ立ち、神の言葉を従っていきました。晩年には、神の言葉を従ってイサクを 燔祭でいけにえとして差し上げました。この事件の中間には、言葉を超えて行動したこともあったが、始まりと終わりが完全かつ良かったです。
聖徒の皆さんは、「私は神の言葉を従って生きていきます。」「神の御言葉の通りに住んでいます。」という言葉であなたの人生を要約することができると願います。